

痛ましい触車死亡事故 原因究明を申し入れ！

7月3日未明、東海道線三島～沼津間で、レール交換の作業をしていた協力会社の作業員（22歳）が、貨物列車に触車し死亡するという痛ましい事故が発生しました。7月6日、本部は「東海道線における作業員触車死亡事故に関する申し入れ」（申第4号）を提出しました。

過去、山手線目黒付近、東海道線新居町駅構内などで、社員や作業員の触車死亡事故が発生しました。死亡事故はあってはならない事故です。過去の教訓は活かされたのでしょうか？会社の安全対策は万全だったのでしょうか？本部は、二度とこのような事故が発生しないように、会社に原因究明・再発防止を求めています。

列車接触、作業員死亡

沼津レールの交換作業中

3日午前2時50分ごろ、沼津市大岡のJR東海道線箱根裏街道踏切付近で、沼津市大岡のJR東さん頭を強く打ち、海道線箱根裏街道踏切で死亡した。同列車は5時近く、西岡山発東郷120分に運転を再開した。沼津駅に到着した列車は、指示に不手際があったとみられる。JR東海協力会社8社の事故調査員と、沼津市吉原の47、アル業をしいたごみ、また、同1時5分ごろバイト作業員八木拓也が、同署が詳しい事故原因には、JR東海道線西岡

二度と事故を 発生させるな

静岡新聞7月3日夕刊



熱海駅間の丹那トンネルの上り線で運転を見合わせ、沼津市大岡のJR東さん頭を強く打ち、海道線箱根裏街道踏切で死亡した。同列車は5時近く、西岡山発東郷120分に運転を再開した。沼津駅に到着した列車は、指示に不手際があったとみられる。JR東海協力会社8社の事故調査員と、沼津市吉原の47、アル業をしいたごみ、また、同1時5分ごろバイト作業員八木拓也が、同署が詳しい事故原因には、JR東海道線西岡

JR東海労申第4号
2009年7月6日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 松本 正之 殿

JR東海労働組合
中央執行委員長 鈴木 富雄

東海道線における作業員触車死亡事故に関する申し入れ

7月3日未明、静岡県沼津市の東海道線箱根裏街道踏切付近で、レール交換の作業をしていた協力会社8社約140人の内、22歳のアルバイト作業員に上り貨物列車が接触し、作業員が死亡したとマスコミが報じた。

事故の詳細は不明であるが、触車死亡事故は極めて重大な事故であり、決してあってはならない事故である。2006年7月11日にも同じ東海道線で社員の触車死亡事故が発生しており、なぜ、その事故の教訓が今回の事故に活かされなかったのか真摯に反省し、万全な対策を構築しなければならない。したがって、下記の通り申し入れるので、誠意を持って回答すること。

記

1. この触車死亡事故が発生した当時の作業状況を詳細に明らかにすること。
2. この触車死亡事故の原因を明らかにすること。
3. この触車事故で死亡した作業員の所属請負会社と経験年数を明らかにすること。
4. 請負会社の作業員に対する会社の安全教育について明らかにすること。
5. この触車死亡事故から、JR東海として取った触車事故対策を明らかにすること。

以上